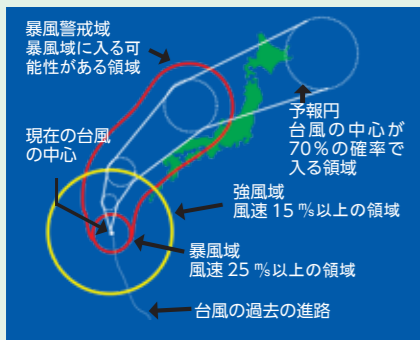


# 正しい知識を身に付けよう

## 進路予報正しい見方

よくニュースなどで取り上げられる進路予報図ですが、正しく理解できていますか。理解した上で見るとどの程度の危険性があるのかがわかります。



## 台風の名前はすでに決まっている

北西太平洋または南シナ海の領域で発生する台風には、共通のアジア名として発生順にあらかじめ用意された140個の候補を順番に付けています。140個のアジア名のうち日本からは、星座名に由来する10個を提案しており、2019年に発生した台風では台風14号に「カジキ」と名付けられています。



## 警戒レベルとは

警戒レベルとは、災害が発生する恐れがあるときに、いつ避難すべきかを分かりやすく伝えるために定められたもので、昨年より運用が開始されています。

警戒レベル	避難情報	とるべき避難行動
警戒レベル5	災害発生情報	命を守るための最善の行動
警戒レベル4	避難勧告 避難指示(緊急)	全ての人が避難(避難場所への移動が危険な場合は、より安全な場所に避難または待機)
警戒レベル3	避難準備 高齢者など避難開始	高齢者など避難に時間を要する人は避難その他の人は避難準備
警戒レベル2	-	ハザードマップなどで避難行動の確認
警戒レベル1	-	災害への心構え

### 台風の接近が増える

今年は現在までに2号まで台風が発生しています(7月1日現在)。過去10年間では年平均4.3個の台風が、熊本県を含む九州北部に接近しており、その半数以上が8月から9月に接近しています。

熱帯の海上で発生する低気圧を「熱帯低気圧」と呼びますが、このうち北西太平洋(赤道より北で東経180度より西の領域)または南シナ海に存在し、なおかつ低気圧域内の最大風速が約17m/s以上のものを「台風」と呼びます。台風は上空の風や周辺の気圧配置の影響を受けて動き、日本に近づくと偏西

風により速い速度で北東に進みます。熊本県では、台風が九州の南西の海上から九州の西岸に上陸するような進路をとる場合に、最も強い影響を受けます。台風は巨大な空気の渦巻きになっており、上から見ると反時計回りに強い風が吹き込んでいます。そのため、進行方向に向かって右の半円では、台風自身の風と台風を移動させる周りの風が同じ方向に吹くため風が強くなります。逆に左の半円では台風自身の風が逆になるので、右の半円に比べると風速が強くなります。

台風はニュースや新聞などの気象情報によって、いつどのくらいの規模のものが近づいてく

### 風の強さ目安

風速(m/s)	起きうる被害
20 m	歩けない
30 m	トラック転倒
40 m	家屋倒壊

のかが分かります。被害を防ぐためには、台風が近づくと前にどのような準備をしておけばいいのか、どのタイミングで避難すればいいのかを考えてみましょう。

# 明日は我が身！防災を考える

杉水・水迫線で7月8日に発生した土砂崩れ。幸い通行中の車などはなく、人的被害は出なかったが、降る続く雨により大量の水分を含んでいたため、道路の復旧には約1カ月を要した。

### 大津町で6日～7日にかけて48時間で400mmを超える雨

## INTERVIEW ① 専門家に聞く備え

### 事前の備えと避難を

台風での災害は、大雨による土砂災害や浸水・洪水害に加え、暴風による災害も起こります。

●**台風が接近する前に**  
台風が発生すれば台風情報を発表します。台風情報では5日先までの進路や強さなどを1日4回、日本に接近してくると8回以上発表します。雨風が強くなる前に、家の補強や非常用品の確認を行ってください。台風が近づいてくれば、気象台が警報や注意報を発表しますので、町からの各種避難情報を確認の上、避難行動をとってください。何をすべきかを決めておくことが大切です。

●**すでに台風が接近している**  
台風が接近し、雨風が強くなっているときに、屋根の補強や補修を行ったり、田んぼや川の様子を見に行ったりして災害に遭う場合があるため、このような行動は避けてください。避難情報に従い、早めの避難を心掛けることが必要です。雨風が強くと避難できない場合には、家の中でも比較的安全な二階や崖から離れた部屋に移るなど、身を守る行動をとってください。

熊本地方気象台 米田 隆明さん

### 熊本を中心に甚大な被害

熊本を中心に九州など広い範囲に被害をもたらした熊本県南部豪雨を、政府は7月10日に激甚災害に指定しました。

県内では球磨川など9つの河川の10箇所以上で氾濫し、床上浸水は5,530棟以上に上ることが判明しています(7月13日現在)。県内で亡くなった人は計65人に上ります。また発見された場所の約6割が屋内で、未明に発生した急激な浸水で、逃げ遅れた人が多かったことが考えられます。今回の大雨で避難した人の「朝起きたら水が来ていた」と話す声もあり、明るいうちの避難がいかに重要か考えさせられます。

### 大津で起きてもおかしくない

大津町では河川の氾濫などなかったものの、杉水での土砂崩れや外牧での倒木などがあり、通行止めが発生しました。町には豊かな自然が広がっており、北には矢護川と平川、南には白川が流れています。そのため、大雨や台風の際には、河川の水位上昇により洪水の危険性が増したり、土砂災害などの発生が予想されます。今回も白川が一時的に氾濫危険水位(5.19m)を超えて、5.49mまで上昇しました。もし、雨が降り続けば氾濫の可能性もあり、他人事ではありません。記録的豪雨などが毎年のように話題になっており、今まで大丈夫だったからという考えは通用しなくなっています。

一時は氾濫危険水位を超えた白川